

いちのせき

## 農委だより

第14号

2010

12



## 農業振興施策の充実へ 市長へ建議書を提出

「平成22年度一関市の農業・農村振興施策に関する建議書」を10月27日、市長に提出しました。

農業委員会から千葉哲男会長、千葉功会長職務代理者、伊藤公夫農政専門委員長、畠山比佐夫農政専門委員長、沼倉喜美夫農地専門委員長が、市側は市長、農林部長、農林部次長が出席し、会長から市長に提出しました。

建議書は農業委員会等に関する法律第6条第3項に基づき、農業者の公的代表機関として意見要望を農政に反映させるため提出されたものです。

本年度の建議事項は、担い手の確保・育成と経営安定対策、農業生産振興対策、食の安全・地産地消・ブランドづくり、基盤整備事業の促進と耕作放棄地対策、農業委員会窓口体制の改善、国・県に対する要望事項の6項目からなります。(一関市ホームページに全文掲載)

提出にあたり会長からは、米価の下落により農家は大打撃を受けており、米の過剰感払拭と中山間地域等直接支払の年内支給のための国への働きかけと、市独自の施策やスタイルを見出すなど農業振興と担い手対策についての支援などを要請しました。

市長は、担い手の確保は地域づくりと一緒であり、地域に若者を残すため農業を含めて雇用確保を重点に進めていきたい。農業振興については「地産地消」から「地産外商」で外に向けてブランド化・販売戦略を強化していきたいとの姿勢を示しました。

### 市議会産経常任委員との意見交換会開催

7月14日、議会全員協議会室にて、市議会産業経済常任委員会(委員

長 菅原巧) 委員7名と農業委員会側から、会長、職務代理者、農政専門委員が出席、市側は農林部長、農林部次長が出席し耕作放棄地対策、担い手育成対策などについて意見交換が行われました。

主な内容は、耕作放棄地対策に関して、高齢化と担い手不足で耕作できない農家が増えている。

放棄地のほとんどは、畑や沢沿いの小区画の水田であり復活させることは無理なところが多く、今のところ有効な作物は見当たらないので、今後は増加させないよう中山間地域等直接支払制度等を活用しながら耕作可能な箇所に集中していく必要があるのではないかと担い手対策について、農業生産の現状は再生産できる状況になく担い手が育たない。農業収入の確



保が重要な課題であり集落営農が地域農業を守る鍵になるのではないか。基盤整備等を考えても地域のみとまりを作る必要があると将来を見据えた話し合いが重要である。

鳥獣被害が深刻で特にハクビシンの被害が多くなっており、罠による捕獲も進められつつあるが、駆除を含めた対策が必要である。

国の農業施策が定まらないので、農家が振り回されないよう5年10年先を見据えた施策を望むなど活発に意見交換されました。

### 第55回岩手県農業委員大会が開催される



農政功労者表彰を受ける佐藤守一前委員

11月11日、都南文化ホールにて、第55回岩手県農業委員大会が開催され、会長、会長職務代理、農政専門員と表彰者が参加しました。当市の受表彰者は、「農政功労者表彰」・佐藤守一前委員、「農業委員会等活動表彰(全国農業新聞部門)」・小野寺勝委員で長年の功績と活動が表彰されました。大会は、「農業政策の充実に関する要請決議」「県の農業振興施策の

充実強化に関する重点要請決議」「農業委員活動の強化に関する申し合わせ決議」の議案を決議し、大会宣言を採択しました。

その後、独立行政法人農業者年金基金の谷脇修理事から農業者年金への加入推進に関する講話と東北大学大学院農学研究科 伊藤房雄教授から、「農政転換期における地域農業の展開方向と農業委員の役割」と題し記念講演がありました。

**農業委員会事務局が市役所本庁に移転しました**

農業委員会事務局は、これまで分庁舎(一関二高清水校舎)で業務を行っていましたが、清明支援学校の移転整備に伴い、10月25日から本庁舎5階に移転し業務を行っております。

電話番号等は次のとおり  
直通電話 21-8692  
ファクス 21-2720



本宮市・函館市農業委員会  
視察研修来訪

当委員会に9月29日に福島県・本宮市、11月10日に函館市農業委員会が視察研修に来訪されました。



さつまいも栽培を視察する本宮市農業委員

本宮市農業委員会は、耕作放棄地解消への取り組みとして、一関市の耕作放棄地全体調査の概要と解消に向けた事例として、社会福祉法人「平成会」が行った、須川パイロット地区内のカボチャやサツマイモ栽培を視察しました。

函館市農業委員会は、一関文化伝承館で舞川18区中山間組合によ

る遊休農地を活用したマコモダケ栽培と電気牧柵による放牧の取組を視察しました。

舞川18区の中山間組合（組合長 佐藤圭一）は4年前からマコモダケの栽培を始め現在約15aの栽培を行っており、生食用のほか短冊切りにして煮て乾燥させた商品を開発し販売しています。また電気牧柵については、地元の橋階農業委員が中心となり、2haの遊休農地に牛の放牧を行っています。佐藤組合長から説明を受け、マコモダケのてんぷらを試食し美味しさを実感していました。



マコモダケ栽培を視察する函館市農業委員

新たな特産品へ  
「アロニア麺」

舞川営農組合（組合長 佐藤二郎）では、新たな特産品への取り組みとして「アロニア麺」を製造し農業祭で初めて販売を行いました。

同組合では、平成18年に地域活性化補助事業で「舞川機能性果樹栽培研究会」（会長 伊藤一）を6名で結成しアロニアの苗600本を植栽し、今年約70kgの収穫がありました。ジャムや染物の染料として活用するほか、西和賀産業公社に委託し乾燥・粉末にして活用方法を探っていたところ、うどんに練り込んだのはとの発想で市内の小野寺製麺（社長 小野寺一郎）に委託し試作を重ねた結果、200gの干麺にアロニア粉末5g（生果実50g相当）を練り込んだ「アロニア麺」が完成しました。（ラベル作成：小野寺社長）

佐藤組合長は「小野寺製麺さんのお陰様でいろいろな配合を変えて試作し、腰があつておいしい麺ができあがった。皆さんに食べていただき、特産品として育てていきたい」と意気込みを語っていました。販売は、舞川の「産直あいあい」で行っています。

※アロニアはブルーベリーの仲間で、ロシアでは「黒い実のナナカマド」と呼ばれジャムやジュースのほか、薬的に食されており、アントシアニンなどのポリフェノールがブルーベリーの3倍以上含まれています。また、肥満抑制や高血圧等に効果が見込めるβ-クリプトキサンチンや各種ビタミンが豊富に含まれています。



「アロニア麺」を手にPRする佐藤組合長



一関日曜朝市は、4月から12月迄(本年度は終了)文化センター西側で毎週日曜日の朝5時から開かれ、今年で26年目になっています。会員19名のうち16名が女性で、いつものおばちゃんの野菜として、地元で生産された新鮮で美味しい農産物を提供し続け地域で親しまれています。例年、一関地方産業まつり農業祭に出店し好評で、今年もこの野菜を目当てに来場されたお客さんでいっぱいでした。来年4月からまた始まります。

**日曜朝市 農業祭で盛況**

## 農地賃借料情報

農地法の改正により、従来の標準小作料は廃止され、地域における賃借料の目安となるよう農業委員会が実勢の農地賃借料情報を提供することになりました。

平成21年1月から同年12月までに締結(公告)された賃借料における賃借料水準(10a当たり)は、以下のとおりとなっております。

### 1 田(水稻)の部(10a当たり)

	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	10,945円	21,531円	2,925円	1,451筆
大東・千厩・東山・室根・川崎地域	7,005円	16,490円	2,469円	226筆

### 2 畑の部(10a当たり)

	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	6,761円	17,590円	2,324円	78筆
大東・千厩・東山・室根・川崎地域	4,059円	17,142円	1,300円	94筆

○今回公表する賃借料情報は実際の契約に参考とさせていただくために、それぞれの地域ごとに契約額が極端に高額、低額(平均値の1.7倍以上および0.3倍以下のもの)な実例をあらかじめ削除した後、全体集計しております。

○実際の農地の賃借には、賃借料が無料の使用貸借契約もありますが実例として含めておりません。

○実際の農地の賃借契約の際は、対象農地の収穫見込量や形状および隣接する道水路等の状況等を考慮して、両者で協議の上決定してください。

## 編集後記

先日、農業祭に行ってきました。

農業祭は農産物の品評会があり、産直コーナーには新鮮な野菜や、採れたての真っ赤なりんご、新米など豊かな秋の実りがたくさん並び二日間です。でも、ここ数年野菜を運んで店を開くおばあさん達の姿が減ってきています。

今、農業を支える人たちが様変わりしてきています。農業に活路を見出すべく飛び込んできた人、定年帰農の人、集落営農で頑張る人、色々な人が頑張っています。また、農業が持続可能な産業として更に発展していくためには、生産活動のみならず加工も含めた形で進化していくことが求められています。

「農委だより」はそんな頑張る人を紹介していきます。地産地消が叫ばれて久しい今、地域農業について考えるきっかけになる情報発信ができればと思います。  
(齋藤)

農委だより編集委員会

編集委員長 小野寺弘行

副編集委員長 伊藤守人

編集委員

富山養喜、齋藤ゆみ

千葉綾雄、村上真喜雄

伊藤 東